

## 豊田市の子ども・青少年を取り巻く現状と課題（総括）

分 類	現 状	課 題	データ（資料 3 - 2 参照）
1 少子化の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総人口は横ばい、微増</li> <li>・出生数は減少傾向が続く</li> <li>・合計特殊出生率は国、県に比べ高い（1.6 台で推移）</li> <li>・18歳未満、30歳未満の人口及び人口の割合は年々減少傾向</li> <li>・地区別では18歳未満の人口割合に差が生じている</li> <li>・婚姻率は全国より高いものの低下傾向</li> <li>・初婚平均年齢は全国より低いものの高くなる傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総人口の自然増を維持するために合計特殊出生率の維持向上 →子どもを生み育てやすい環境づくり →未婚、晩婚化への対応 →少子化対策のパッケージ化</li> <li>・地域の担い手に格差が生じていることへの対応</li> </ul>	①出生数の推移（人口動態統計） ②合計特殊出生率の推移（（保）総務課調べ、人口動態統計他） ③総人口と18歳未満人口・30歳未満人口の推移（市民課調べ） ④地区別人口における子どもの人口割合（市民課調べ） ⑤婚姻率及び初婚平均年齢（人口動態統計）
2 こども園等の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園等の園児数は13,000人前後で推移</li> <li>・0～2歳児の園児数、就園率は増加傾向にある</li> <li>・3歳児は微増傾向にあり就園率も高まっている</li> <li>・4～5歳児の就園率は97%程度で推移しているが、園児数は減少傾向</li> <li>・2014年度から待機児童0人を継続（年度当初）</li> <li>・年度半ばの待機児童は0～2歳児が大半を占める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0～2歳児の保育ニーズ増加への対応 →待機児童解消に向けた取組</li> </ul>	①こども園等の園児数、就園率の推移（保育課調べ） ②待機児童数の推移（保育課調べ） ③定期的な教育・保育について、子どもが何歳になったら利用しようと考えているか（市民意向調査）※調査実施中
3 仕事と子育ての両立に関する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20～30歳代の専業主婦の割合は全国よりも高い</li> <li>・5年前と比べ、専業主婦の割合が低い</li> <li>・全国、県と比べ「M字カーブ」の溝が深い</li> <li>・小学生の母親の就労している割合が5年前と比べ、8.6ポイント上昇しており、フルタイムの伸びが大きい</li> <li>・仕事、家事等の優先度について、希望と現実のギャップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親の就労割合の高まりに伴う意識や環境の変化への対応 →安心して子どもを預けられる環境づくり</li> <li>・ワークライフバランスの充実 →家族との時間を楽しめる環境づくり</li> </ul>	①専業主婦の年齢別割合（国勢調査） ②女性の労働力率の全国・県との比較（国勢調査） ③母親の就労状況（市民意向調査） ④「仕事」「家事（育児）」「プライベート」の優先度（市民意向調査）
4 家庭における子育てに関する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発育・発達に対する不安を感じている</li> <li>・子育て不安・育児ストレスに対する相談件数が増加</li> <li>・2016年度に設置した「とよた急病・子育てコール24」の利用は増加傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育ての不安を取り除くための対策の充実 →子育ての相談体制の継続や充実</li> </ul>	①日頃の子育てについて感じていること（市民意向調査）※調査実施中 ②子育て仲間の有無（市民意向調査）※調査実施中 ③子育て支援センター等相談件数（子育て支援センター調べ） ④とよた急病・子育てコール24の利用状況（子ども家庭課調べ）
5 地域における子育て支援に関する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年前と比べ、大人が地域の子どもの居場所づくりなどに「参加してもよい」の割合が減少し、「必要だと思うが、参加は難しい」の割合が増加</li> <li>・5年前と比べ、子どもが地域の行事や活動へ参加する割合は大きく変化していない</li> <li>・放課後児童クラブの利用者が年々増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人と地域の関わりの希薄化が進んでいることへの対応</li> <li>・多様な子どもの居場所の確保</li> <li>・利用者の増加傾向が続く放課後児童クラブへの対応</li> </ul>	①地域の子どもたちの遊び場や放課後の居場所づくりに参画することについて（市民意向調査） ②近所や地域の大人とのかかわり（市民意向調査） ③地域の行事や活動への参加頻度（市民意向調査） ④地域であつたらよいと思う場所（市民意向調査） ⑤放課後児童クラブの利用児童数とクラブ数の推移（次世代育成課調べ）

分 類	現 状	課 題	データ（資料３－２参照）
6 自立支援が必要な青少年の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市若者サポートステーションの登録者数、相談件数が年々増加している</li> <li>・全国での青少年の失業率は減少しているが、全年齢に比べ高い状態が続く</li> <li>・ひきこもり状態の人の高齢化及び長期化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な青少年の自立・就業に向けた対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ひきこもり年齢の上昇</li> <li>→高校中退者・早期離職者への支援</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①豊田市若者サポートステーションの登録者数、相談件数、登録者の年齢の推移（若者サポートステーション調べ）</li> <li>②青少年の失業率の推移（労働力調査）</li> <li>③フリーター・若年無業者の推移（「青少年白書」及び「子ども・若者白書」、労働力調査）</li> <li>④外出の頻度（市民意向調査）</li> </ul>
7 子どもの権利に対する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生高学年以降の「とよた子どもの権利相談室」の認知度が大きく向上したが、豊田市子ども条例の認知度は、大きく変化していない</li> <li>・子どもの権利が尊重されていると感じる子どもが前回調査より高くなっている</li> <li>・一定数の不登校の子ども</li> <li>・いじめの認知件数は小中学生共に増加傾向</li> <li>・児童虐待相談対応件数は増加傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な子どもの権利保障の啓発活動による更なる理解の促進</li> <li>・不登校対策</li> <li>・いじめの対応</li> <li>・児童虐待対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「豊田市子ども条例」の認知度（市民意向調査）</li> <li>②「とよた子どもの権利相談室」の認知度（市民意向調査）</li> <li>③豊田市における「子どもの権利」の尊重に関する現状意識（市民意向調査）</li> <li>④子どもが学校に行かなくなったこと（不登校）の有無（市民意向調査）</li> <li>⑤いじめの認知件数の推移（豊田市生徒指導上の諸問題調査）</li> <li>⑥児童虐待の動向（子ども家庭課調べ）</li> <li>⑦とよた子どもの権利相談室の相談件数（とよた子どもの権利相談室調べ）</li> </ul>
8 社会的支援が必要な子育て家庭の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「夫婦と子ども」「三世代家族」の減少</li> <li>・ひとり親世帯数は増加傾向が続いている</li> <li>・療育手帳保持者は年々増加</li> <li>・人口に占める外国人の割合は増加してきており２０～３０歳代の割合が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な要因による社会的支援が必要な家庭（外国籍の子、障がいのある子、ひとり親家庭の子、経済的に困難な家庭の子、不登校の子、社会的ひきこもりの子、虐待を受けた子、心理的外傷を受けた子、非行を犯した子等）に対する適切な支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①家庭類型別世帯割合の変化（国勢調査）</li> <li>②ひとり親世帯数（国勢調査）</li> <li>③１８歳未満の療育手帳保持者の推移（障がい福祉課調べ）</li> <li>④年齢別外国人割合（住民基本台帳）</li> </ul>
9 子どもの貧困に対する認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市の相対的貧困率は５.４%</li> <li>・相対的貧困率は全国、愛知県に比べ低い</li> <li>・「子ども食堂」の認知度は概ね４割程度</li> <li>・学習支援や子ども食堂へのボランティアの参加意向は４割以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困状態にある子どもの状況が見えづらい <ul style="list-style-type: none"> <li>→子どもの権利保障の視点からの理解活動</li> <li>→対象となる子どもがどれくらいいるかわかりづらい</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子どもの相対的貧困率（愛知子ども調査）</li> <li>②「子どもの貧困」の認知度（市民意向調査）</li> <li>③「子ども食堂」の認知度（市民意向調査）</li> <li>④「子ども食堂」のイメージ（市民意向調査）</li> <li>⑤学習支援や「子ども食堂」へのボランティア参加意向（市民意向調査）</li> </ul>
10 社会動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話・スマートフォンの保有率の増加</li> <li>・幼児教育無償化の議論が進められている</li> <li>・児童福祉法の改正（２０１６年）</li> <li>・第８次豊田市総合計画（２０１７年度～）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話・スマートフォンの適切な利用</li> <li>・児童虐待の増加 <ul style="list-style-type: none"> <li>→児童虐待に対する対策の強化（児童福祉法の理念の明確化等、児童虐待の発生予防、児童虐待発生時の迅速・的確な対応、被虐待児童への自立支援）</li> </ul> </li> <li>・子育て不安を抱える保護者の増加、保育ニーズの多様化等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自分専用として持っているもの（市民意向調査）</li> <li>②平日、学校が終わった後に携帯電話・スマートフォンを使った時間（市民意向調査）</li> <li>③児童虐待の動向（子ども家庭課調べ）※再掲</li> </ul>